

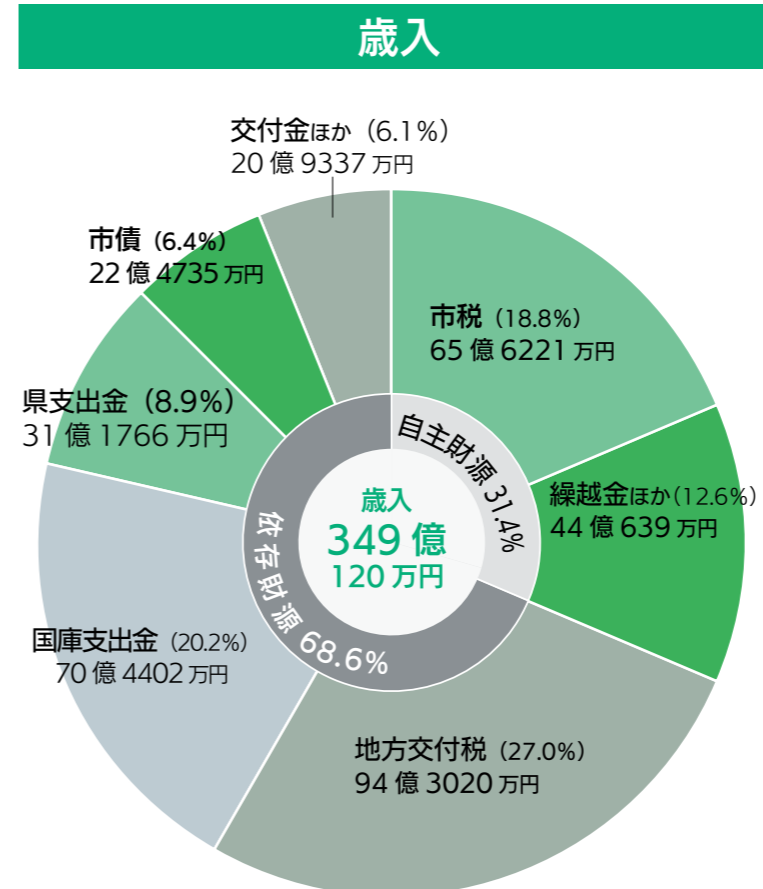
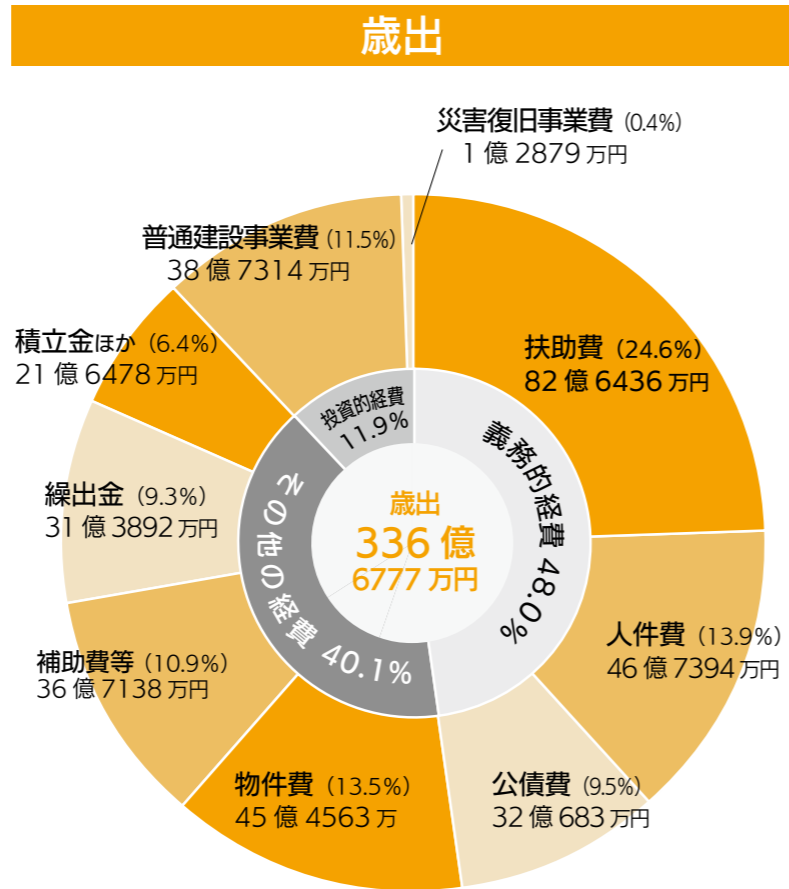
グラフ内の用語説明

歳入

- 繰越金 翌年度の財源として繰り越す決算上の余剰金
- 地方交付税 市町村の財政力に応じて国から交付されるお金
- 国庫支出金 国から交付されるお金
- 県支出金 県から交付されるお金
- 市債 市の借金

歳出

- 扶助費 高齢者や子ども、障がい者を支援するためのお金
- 公債費 市の借金を返済するためのお金
- 物件費 事務費や消耗品費など消費的性質をもつ経費
- 補助費等 市が他の団体などに払う経費
- 普通建設事業費 道路・水路や公共施設の整備に必要なお金



決算

令和4年度一般会計

10億9856万円の黒字決算

令和4年度の市一般会計決算が9月の市議会定例会で認定を受けました。皆さんが納めた税金などがいくら入り、それがどのように使われたのか、市の台所事情を示す決算。令和4年度は、歳入が349億120万円、歳出が336億6777万円で、差し引き12億3343万円、翌年度へ繰り越すべき財源1億3487万円を除いた実質収支10億9856万円の黒字決算となりました。市債の大幅な減少や、新ごみ焼却施設の完成などにより、歳入歳出ともに令和3年度決算と比べて減少しました。【問】市財政課財政係（☎77・8432）

歳入総額は、令和3年度（383億352万円）に比べると、8.9%減の349億120万円。減少の主な要因は、市債借入が令和3年度に比べて36億2325万円減少したこと。他にも子育て世帯臨時特別給付金事業費などコロナ関連費の減少によって、国庫支出金が7億7233万円減少したことも要因の一つです。

新ごみ焼却施設完成で補助費等が大幅減

歳出総額は、令和3年度（365億4621万円）に比べると、7.9%減の336億6777万円。扶助費や公債費など増加した経費はあったものの、新ごみ焼却施設が令和3年度で完成したため、補助費等が45億7982万円減少し、令和3年度の半分以下になったことが最大の要因です。

市債が前年度の半分以上に減少

決算を家計に例えたら

支出（カッコ内は予算科目）	金額
食費（人件費）	47,000円
医療費、教育費など（扶助費）	83,000円
水道光熱費、物品購入費用（物件費）	46,000円
家や車などの修理、電気製品などの購入費用（維持補修費、普通建設事業費）	41,000円
家族への仕送り、自治会費など（繰出金、補助費など）	68,000円
借入金の返済（公債費）	32,000円
友達に貸すお金（貸付金）	4,000円
雑費（その他）	16,000円
合計	337,000円

市の決算は、普段の生活とはかけ離れた金額なので、想像しづらいですね。そこで市の予算を10万分の1にして、1カ月の家計簿に置き換えてみました。



収入（カッコ内は予算科目）	金額
基本給（市税使用料、手数料など）	82,000円
諸手当（地方交付税など）	103,000円
親からの仕送り（国庫補助金など）	123,000円
銀行からの借入（市債）	22,000円
預金の取り崩し（繰入金）	1,000円
先月の残金（繰越金）	18,000円
合計	349,000円

特別会計・企業会計

特定の事業のために、特定の歳入、歳出を一般会計とは区別して経理する特別会計。市には3つの特別会計と2つの企業会計があります。主な会計の歳入歳出決算額（1万円未満四捨五入）は次のとおりです。

特別会計名	歳入決算額	歳出決算額	差引額
国民健康保険特別会計	87億 859万円	84億 9383万円	2億 1476万円
後期高齢者医療特別会計	11億 3883万円	11億 3317万円	566万円

収支	企業会計名	収入決算額	支出決算額	差引額
収益的収支※1	水道事業会計	13億 6616万円	12億 9280万円	7336万円
	下水道事業会計	7億 6799万円	7億 1348万円	5451万円
資本的収支※2	水道事業会計	8億 3302万円	11億 1246万円	△2億 7944万円※4
	下水道事業会計	3億 4898万円※3	5億 7323万円	△2億 2425万円※4

※1 水道水の供給、汚水の適切な処理に必要な財源と経費

※2 水道、下水道施設を建設、改良するために必要な財源と経費

※3 翌年度繰越工事額の財源額 1221万円を除く

※4 不足額は、損益勘定留保資金などで全額補てん

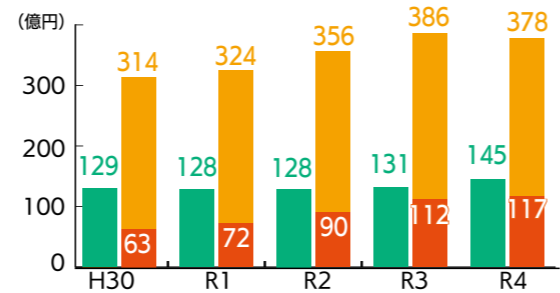
基金と市債

市の貯金「基金」と市の借金の「市債」。ここでは近隣市との比較や過去5年の推移を紹介します。

■令和4年度 近隣市の基金と市債の残高状況

	基金	1人当たり	市債	1人当たり
柳川市	145億円	23万円	378億円	60万円
みやま市	102億円	29万円	271億円	77万円
大川市	55億円	17万円	157億円	49万円
筑後市	82億円	17万円	154億円	31万円
大牟田市	98億円	9万円	448億円	42万円

- 基金** 年度内の財源調整や施設の維持整備などの特定の目的のために積み立てる市の貯金
- 市債** 主に建設事業の財源にするための借入金
- 実質負担** 市債から交付税措置を除いた負担額



施策の柱として令和4年度実施した主な事業



むつごろうランドの大型遊具

第2次柳川市総合計画で目指す将来像「水と人とまちが輝く柳川」を実現するため、4つの政策目標などに沿って進めた主な事業を紹介します。

若い世代の希望を叶え、柳川の子育て、暮らしに幸せを感じる **ひとづくり**

- 昭代第二小学校校舎大規模改造事業 7152万円
- 地域子育て支援拠点事業 3583万円
- 保育士等処遇改善臨時特例事業 3151万円

水郷柳川の風情や快適さに共感し人を惹きつける **まちづくり**

- 水郷柳河掘割地区整備事業 1億 7630万円
- 中島谷垣線道路整備事業 1億 6198万円
- 資源物貯留施設整備事業 1億 549万円



橋本町のらくらくステーション（手前の白い建物）



多くの人が集まった白秋ホール

柳川の歴史・文化・風土に誇りと愛着を持つ **ふるさとづくり**

- 市民文化会館事業（コンサートや展示など） 9225万円
- 文化財保護事業（北原白秋生家の修復など） 3164万円
- 市史編纂事業（市史の刊行など） 2872万円

柳川の地域資源や産物を誇る **しごとづくり**

- 漁港浚渫事業 1億 3018万円
- 活力ある高収益型園芸産地育成事業 1億 2969万円
- 産地生産基盤パワーアップ事業 1億 747万円
- 商店街活性化対策事業 9102万円
- 新規起業・創業支援事業 1304万円



ナスなどハウス栽培の生産を支援

市の決算 Q&A

どうして市債を発行するの？

道路や公園、学校などの公共施設は、整備後も長い期間使用します。そのため、整備した年度の市税収入だけで整備すると、費用の負担がその年度の市民だけに集中します。そこで市債を発行し、将来の市民には「借入金の返済」という形で費用を負担してもらうことで、負担を公平に分けています。

市債なし

市債あり

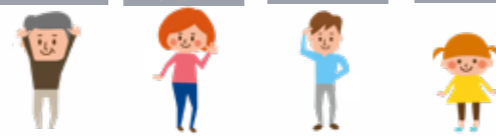
負担

公共施設を整備した年度の市民に負担が全額集中してしまう



負担 負担 負担 負担

公共施設を使う将来の市民にも公平に負担を分けられる



新型コロナウイルス感染症緊急対策

- 電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金 3億 5247万円
- 新型コロナウイルスワクチン接種 2億 6511万円
- マイナンバーカード普及促進商品券交付事業 2億 3174万円
- 物価高騰対策としての水道料金減免事業 6037万円
- 住民税非課税世帯等への臨時特別給付金 6029万円
- プレミアム商品券（拡大版）事業 6000万円



コロナワクチン接種